

《戯曲》
楽屋のお掃除

作：オ・セヒョク

翻訳：洪明花

登場人物

男1 解体屋（強制撤去業者）

男2 解体屋（強制撤去業者）

...韓国では日雇い労働者や学生などがアルバイトで働く場合が多い。

女優

マネージャー スター歌手の義理の弟

男1、男2、

沈黙の中、

公演が終わったままになっている楽屋と舞台風景が浮かび上がる。

しばらくして、

男1、取り壊しの作業着姿で入ってくる。

立ち止まり、しばらくじっと楽屋を見つめている。

少しして、

男2、同じく、作業着姿で入ってくる。

二人とも、ひと揉めしてきたようだ。

男2抵抗しやがって。クソやろうども。

男2、当然のように隅で小便をしようとする。

男1 おい。（制す）

男2 漏れそうなんだよ。

男1 便所でやれよ。
男2 便所は1階だ。ここ4階だぞ。
男1 行けよ。
男2 外は、あいつらが座り込んでるじゃないか。
男1 いくらなんでもしょんべんの邪魔まではしないだろ。
男2 するね。俺たちはした。夜中に人が寝ている家をぶっ壊して、飯を食っているところをぶっ壊して、しょんべんしてるところをぶっ壊して。
男1そうだな、俺たちはした...じゃあ...やめろ。我慢しろ。
男2 どうせぶっ壊すんだ。しょんべんぐらいいいじゃねえか。
男1ここは...気が流れてる...ここに住んでいた奴らが吐き出した気...なんだろう...でも感じる...よくわからんが...ただの単純な欲求を超えた...もっと、高尚な何か...だからなぜか...お前の安っぽいションベンなんかかけてはいけない気がする。
男2 ちっ。仲間のしょんべんより、誰かも知らない奴らに敬意を払うってのか？
男1 なあ、少しだけ、ほんのちょっとでいいから一緒に眺めないか。こんな“気”が流れている場所、もう二度と来ることはないだろう。だから少しだけ眺めよう。

二人、しばらくの間、楽屋を眺める。

男1感じるだろ？
男2ああ...感じる.....しょんべんが.....やばい.....
男1 ここは何だったんだろう。あの大量の服、カツラ、化粧品、鏡、カップラーメン、バツカス（*註1）、ウルサ（*註2）。
男2 だめだ！無理！漏れる！我慢できねえ！

男2、ズボンを緩めて小便をしようとする。

女優が様子を伺いながら入ってくる。

男2、急いでズボンをあげて、

男2くそ、ションベン.....。
女優取り壊しの方ですよ？
男1ああ
女優どうやって壊すんですか？
男1は？...えっと...そりゃ説明が難しいな。

男1と男2、解体用のパールやツルハシなどの道具をぶんぶん振り回し、壊すしぐさ。
女優、驚愕する。

女優 そんな乱暴に？ ここにあるもの全部？
男1 ああ。
女優 そんな...この美しいものたちに向かって。
男2 ションベンもな。
女優 ションベン.....この美しいものたちに。

女優、泣きそうになる。
男1、男2の頬をたたく。

男1 ションベンはやめろ。
女優 ありがとうございます。
男1 おい、ここの何が美しいんだ？ この服は全部、どうせ東大門市
場（*註3）かユニクロだろ。カツラもネットのパーティーグッズで
買えそうだ。化粧品もその辺のドラッグストア。安物だらけのこの安っ
ぽい空間のなにが美しいんだ？
女優 その道具を見て何を感じます（男たちの持っている道具を指して）
男2 美しい。

男1、男2の頬を叩く。

男1 ふん、別に何も感じねえ。こんなもの飽きるほど見てる。
女優 ええ.....私も何も感じなかった.....毎日見ていた時は.....でも
.....今は美しいと思う.....もう見るできないから。

男1、男2、しばらく、自分たちの道具を見つめる。

男1 こんなものちっとも美しいと思わねえ。手に持つものは小さい方がい
いんだ。汗をかかねえからな。汗なんかかきたくねえ。俺はな、こんな
くそ重たい道具なんかじゃなく、契約書に押すための印鑑しか持たな
い、そんな生活がしたいんだ。それが俺の夢だ。ぶっ壊して追い出す
仕事じゃなく、ぶっ壊して追い出したものを気楽に買い占める。そん
な生活だ。
男2 お前、やっぱ頭いいな～。なんでお前みたいに頭のいい奴がこんな仕
事をしてるのか不思議で仕方ねえ。
男1 それは俺がこの国に生まれたからだ。

男2 へ？ この国がなんだって？
男1 もういい。これ以上話したら俺は捕まっちゃう。.....それでお嬢さん、
何が望みだ？
女優 望みを言ったらきいてくれるんですか？
男1 いや。
女優
男1 しかし、今日はどうもおかしい。変な空間に入り込んでしまった。会社
や商売をしていた感じでもない。工場でも食堂でもない、何かを作っ
たり売ったりしていた気配がない。普通はもっと生活の匂いがするも
んだ。水の外に出た魚が、水中に戻ろうと必死にあがくような生活臭。
ここは違う。全く生活感がない。ただ留まっているだけ。ここは何な
んだ？
女優 楽屋です。
男2 お〜っ！ 楽屋！それは知ってるぞ！ 昔、ルームサロンのウェイ
ターをやってたんだ。楽屋ってのは、客待ちの姉ちゃんたちが化粧し
たり、ラーメン食ったり花札やったりする場所だ。

男1、男2の頬をたたく。

男2 なんだよ、除け者にしやがって。俺だって一応、色々考えて生きてん
だぞ。
男1 なんの楽屋だ？
女優 劇場の楽屋です。
男1 劇場？
女優 ここでメイクして、観客が席についたら舞台にあがる。
男1 何をする？
女優 演劇です。
男1 演劇。.....演劇って何だ？
男2 俺知ってるぞ！ 演劇って芝居のことだろ。亡の野郎、芝居しやがって
！」っていうあれだ。ウソだよ。騙すんだ。
女優 ええ、そうですね。舞台の上ではウソの世界。でも私たちは本当を語る。
男2 は？ 何言ってるんだ？ ウソの世界で本当を語る？ なんだそれ？
女優 本当の世界でウソみたいなことが起きることだってあるでしょう。
男2 ちっ！ 哲学か。馬鹿じゃねえの。本当の世界で起きることは本当の
ことに決まってるじゃねえか。
女優 苦勞して一生働いても家一軒建てられずにいる人間と、一生働かずに
たくさん家を持っている人間が共存する世界、70歳を超えたおばあさ
んが紙屑拾いをしてやっとならぬラーメンが買える世界、女性が路上

で理由もなく罵られ暴行される世界、しょっちゅう電車が止まり、橋が崩れ、船が沈む世界。そんなのが本当の世界？

男2 うるせえ！ そうだよ！ それが本当だ！ 本当の、現実の世界だ！
俺だって子供の頃は信じていた。教会にパンフレットがあってな、果物が生い茂る楽園で、人間や動物が、働きもせずゴロゴロして平和に暮らしてるんだ。俺は信じた。神様を信じたら、大人になったら、こんなふうに暮らせるんだって。でもくそっ。そんなのあるわけねえ。あんなもん偽物だ。人間てのは、苦勞するように生まれてんだよ。死ぬまで歯を剥き出して、爪を立てて、目ん玉ぎょろぎょろさせて生きるんだ。原始時代には恐竜がいて、農耕時代には地主、産業化時代は資本家野郎。俺たちは食い潰されて生きるんだ！ 食われたくなきや食うしかない！ 恐竜にはなれなくてもハイエナぐらいにはならなきやいけねえんだ。小鹿みたいなお嬢さんよ！

しばらく静寂。

男1と女優、拍手する。

男1 驚いたな。お前も色々考えて生きてるんだな。
男2あれ？そうだな.....俺にも.....あった.....ちゃんと考えがあった...。
女優 本当のあなたですね。
男2 本当のオレ.....。妙だな。急に世の中にムカついてきた。本当のオレ.....。いや、俺は変わってない。だが胸くそ悪い。なんだってんだ。マトリックスのネオになった気分だ。くそ。
男1 考えるな。それ以上考えたら捕まるぞ。考えることはな、国が嫌うんだよ。
男2 構うもんか。俺の親父はベトナム戦争で立派に戦った英雄だ。
男1 で、あんた、なにしに来たんだ？
女優 最後にもう一度見たくて。私にとって本当だった世界が消えてしまう姿を。
男1 見るだけか？
女優 はい。
男1 ぶっ壊されるのをただ見るだけ？
女優 はい。
男1 何もしないで、ただ悲しんで、ただ苦しんで、ただ涙を流して？
女優 はい
男2 アホらし。
女優 え？

男2 自分にとって本当だった、本物の世界が消えていくのをただ見に来ただと？

女優私.....ただ悲しくて。

男2 悲しい？ けっ。悲しんでる自分に浸りたいだけだろ。

女優だって.....私には何もできない。

男1 その通りだ。何もできねえ。だから俺たちがぶっ壊すのを泣きながらただ見つめて、すっかり壊されちゃったら、近くの飲み屋で仲間たちと集まって、“それでも演劇は偉大だ” とかなんとか、偉そうにくっちゃべる。

女優私たち.....別に世の中と戦っているわけじゃありません.....世の中を観察しているだけです。

男1 毎日、ここで何やってたんだ？

女優 ...昼に集まって稽古します。

男1 それで？

女優 飲みに行きます。

男1 それで？

女優 本番が来たら公演します。

男1 それで？

女優 飲みに行きます。

男1 それで？

女優 また次の作品の稽古します。

男1 それで？

女優 飲みに行きます。

男2 ザッツ ザ シンプル！ 一言で言やあ、一日中ここにいて夜になったら飲みに行く！ それだけだ。世の中に関係なくな。

女優 そうです。私たちは一日中ここにいます。でもここで世の中のことを考えている。飲みながら、いつも世の中のことを考えてます。

男1 飲み代は誰が払うんだ？

女優舞台を観に来てくれた知り合いとか.....。

男2 へ？ 観に来た奴が飲み代まで？

女優 私たちお金がないので。

男1 そいつは金払って観るんだろ。だったら気持ちよくその金で奢ってやれよ。なんで奢ってもらうんだ。

女優 ほとんど招待なんです。そのお礼にご馳走してくれる。ケーキや花を買ってくれたり、飲み連れて行ってくれたり。

男2 なんで招待？ 売ればいいじゃねえか。スーパーの肉の特売セールみたいに！ 電気屋でスマホ売りたいに！ 明洞（*註5）で化粧品売りたいに！ あいつらの掠れた声を聞いたことあるか？ ありや

パンソリのレベル（*註6）だ。あれぐらい必死に声張り上げて、それでやっと売れるんだ！ 売れよ！ 街に出て、声が枯れるまで必死でチケットを売れよ！

女優 声が枯れたら芝居ができない。

男2 ケッ！ なめんなよ。

女優 私たちの芝居、お客が少なくて。一人でも見に来てくれたら嬉しい。だから招待するんです。

男1 宣伝は？ 必死で宣伝してるのか？

女優Facebookとか.....あと、知り合いにラインしたり.....

男1 チケット代はいくらだ？

女優 割引きで1万ウォン（*註7）です。

男1 ケーキや花代の方が高いな。

女優はい。

男1 飲みに行ったらもっとかかる。

女優 ええ。

男1 クソだな！ やめろやめろ！ 涙が出るね。情けなくて涙が出る。街に出てチケット一枚売る勇気も力もないくせに、自分の舞台は本物だと？ 笑わせんな。そんな舞台で、世の中がどうだ、人類がどうだ、資本主義がどうだって言ったところで何になる。たった1万ウォンのチケットも売れない奴らがたわ言抜かしやがって。舞台の上で偉そうに大きな声で叫び、舞台を降りたら酒をたかお前らなんか偽物だ！ 自分たちでチケットを売り、自分たちの金で酒を飲まないお前らは偽物だ！ もういい。罪悪感はなくなった！ 偽物がいたここも偽物だ！ 道具を掲げよ！ 我々は偽物をぶち壊す！

男たち、道具を高く持ち上げ、楽屋を壊そうとする。

女優が悲鳴をあげて、彼らの頬を打つ。

女優 男 やめろ！ このチンピラども！

1、2女

女優 男2あ.....ごめんなさい。今のは私じゃありません。

女優 じゃ、だれだ？

わかりません。私も知らない誰かが突然。

男1、2、もう一度、道具を振り上げて壊そうとする。

女優、また悲鳴をあげて二人の頬を叩く。

女優 やめろってんだ！ くそやろう！

男1、2
女優ごめんなさい。私じゃありません。
男2 ふざけやがって！ じゃ一体誰だよ！
女優 わかりません。私も知らない誰かが突然。

その時、マネージャー（歌手の義理の弟）が、拍手をしながら登場する。

マネージャー ブラボー！ うちの義兄（あに）が素晴らしかったって。涙が出たって。拍手をしてやってくれって。
男1お前誰だ？
マネージャー 今のシーン。
男1見てたのか？
マネージャー ほら、あのカメラ。昨日つけたんです。ここはもう義兄のもの（財産）なんで。今も見てますよ。手を振ってやってください。
女優あの、私、ファンなんです.....私.....すごく.....。
マネージャー 彼のファンじゃない人なんかいませんよ。なんたって世界的な歌手だ。
男2 またどこかで誰かを追い出す時はいつでも俺たちを呼んでくれ、とお義兄さまにお伝えください。
マネージャー タダってわけにはいきませんね。マージン30%でいいですよ。
男2 さすがやり手でございますな。
マネージャー 義兄のおかげですよ。僕はこうやって伝言するだけでも一生暮らしていけるんです。
男1で.....なんだよ？
マネージャー 義兄が、とても感動したそうです。さっきの。あれこそ本物だと。

マネージャー、男たちの頬を叩く。

男1、2
マネージャー さっき、こちらの女優さんがこうやって叩いたじゃないですか。本物でした。本物の演技。
女優本物の演技？
マネージャー ええ、本物の演技。作ったり計算されたものじゃなかったでしょ？心のままの表現でしょ。
女優あ、はい.....私.....本当に.....あの人たちをひっぱたきたくなかったです。
男2 このやろう！ 知らない誰かって言ってたじゃねえか。
マネージャー 義兄はお芝居が大好きでしてね。今は歌手やタレント業しかやってませんが、そのうちドラマもやりたいそうで。それにはやっぱり演劇だと。

女優 演劇で鍛えられたさすがの演技力！と、賞賛されたいそうです。

マネージャー わかっていらっしゃるわ、演劇の重要性を。

女優 近いうちに舞台の予定がありましてね。作品を選んでいるところなんです。

マネージャー まあ！あの方が舞台に立ったら話題になるわ。また演劇が注目される！どんな作品なんですか？

マネージャー 今、候補が3つあってね。ホットな同時代の東ヨーロッパの作家の戯曲を、ホットな同時代の東ヨーロッパの演出家が来て、韓国俳優と創る作品、ホットな同時代の北ヨーロッパの作家の戯曲を、ホットな同時代の北ヨーロッパの演出家が来て韓国俳優と創る作品、ホットな同時代の西ヨーロッパの作家の戯曲を、ホットな同時代の西ヨーロッパの演出家が来て韓国俳優と創る作品。

男1 ややこしいな。普通に韓国の作家の戯曲を韓国の演出家と俳優で創ったらいいじゃねえか。

マネージャー それはホットじゃないそうです。最近、同時代、ヨーロッパ、この二つが入ってないとホットじゃないんですって。

男2 助かったな。撤去は今のところ韓国人の仕事だ。

男1 ヨーロッパには俺たちみたいな奴がいないって聞いたことがある。

男2 へ？じゃあどうやって追い払うんだ？

男1 公的な手続が必要だ。

男2 法律があるのか？じゃ、俺たちみたいな奴はどうやって生きるんだよ？

男1 韓国に生まれたことに感謝しろ。

男2 ラッキー！ヨーロッパは撤去もホットなんだな。

女優 複雑だわ。演劇がどんどん複雑になっていく。同時代、ポストモダン、ポストドラマ、コンテンポラリー、融合、複合、融複合、何が何だかわからない。

男1 あんたらはどんな演劇をするんだ？

女優私たちは.....創作です、ずっと.....特に良くもなく...ホットでもないけど...オリジナルを創作して公演しています。

男2 良くもなくホットでもないのになんだって創作するんだ？あんたらもホットなものをやれよ。東ヨーロッパ、北ヨーロッパ、西ヨーロッパ、そういうの。

女優私たちは.....私たちの言葉を語りたい。

男1 あんたらの言葉ってなんだよ？

女優 常に変わります。時代や状況によって。

男2 じゃあ、もし今、ここで芝居をすとしたら、どんな言葉だよ？

女優、突然、男1と2の頬を叩く。

女優

クソ野郎ども！いいか、これはな、お前らを引っ叩いたんじゃない。お前らの後ろに潜んでいる本当のお前らを引っ叩いたんだ。お前ら、どんだけ隠れているんだ？お前らの後ろに潜むお前らは、今、この瞬間、どれほど大切なものを壊そうと企んでるんだ？このビンタはお前らには届かない。でもお前らの前にいるお前らを引っ叩いたら、私一人じゃなく、この世の中の全ての私に一斉に引っ叩かれたら、我慢できなくなったお前らの前にいるお前らが、お前らの後ろにいるお前らのもとに向かうだろう。お前らが前に送り出したお前らが、後ろにいるお前らを引っ叩く世の中が必ずやってくる。私は、それまで、舞台の上で、お前らを叩き続けてやる。でも、舞台の外側にいるお前らの横っ面を引っ叩くことはできない。だから悔しい。悔しくて腹が立つ。腹が立つから酒を飲む。酒は怒りを抑えてくれる。酔いが覚めたらまたお前らの横っ面を引っ叩く。今はそのぐらいしかできない。悔しいけど、それが今の私たちだ。悔しいけど。それでも叩き続けてやる。決してあきらめない。舞台の外側にいるお前らの横っ面を、いつか必ずひっ叩いてやる。忘れるな！このビンタを！

女優、男1、2の頬をまた叩く。

マネージャー、熱い拍手を送る。

電話がなる。

マネージャー 義兄さん！え、まじ？まじで？オッケー、了解～！

マネージャー、電話を切って。

マネージャー 義兄が泣いています！今の台詞に感動したって！

女優 本当ですか？

マネージャー 本当です。カメラのうしろに隠れている自分に深く反省しているって。スカッとしたって。罪の意識が、春の雪解けのように消え去ったって。

女優どういう意味ですか？

マネージャー いい芝居を見せてもらったお礼に、慈善活動をすることにしたと。

女優慈善.....もしかして.....ここを...このまま....

マネージャー 馬鹿言っちゃいけない。それは慈善活動とは言わない。慈善と言うのは自分のやるべき事はやった上で、施すものです。ここは予定通りすっきり取り壊すそうです。その上で、ホットな同時代アーティストたちが集まるアトリエを作ることにしたそうです。アンディーウォーホー

ルのファクトリーみたいに芸術が息づく場所にするそうです。

- 女優 ……演劇も……芸術ですが……
- マネージャー 義兄は、(ただの)演劇はホットじゃないって言っています。なんで公共劇場で外国の演劇ばかり上演するのか考えてみろって。融合、交流、コラボ、こういうのをやるんだって、義兄が。
- 女優 ……え、じゃ……慈善って…?
- マネージャー 30分差しあげるので、ゆっくり名残を惜しんでください。欲しいものがあれば全て持って行ってもいいそうです。
- 男2 ふざけんな。そんなに待つ時間なんて、
- マネージャー お金は払います。
- 男2 待ちましょう!
- マネージャー では、心ゆくまで、お遊びください。

マネージャー、退場。

- 男1 ……これが遊びに見えるのか……本当に遊んで生きてる野郎が……。
- 女優 ……。
- 男1 ……毎日酒を飲む訳だ。
- 女優 ……。
- 男1 でも、ほどほどにしとけよ。

女優、泣く。

- 男2 なんで泣く?
- 女優 ……わかりません……ただ……なんか……腹が立って。怒ってる時間ねえぞ。30分だ。急いだ方がいいぞ。
- 男2 ……わかりません……でも……なんか……腹が立って。
- 女優 ……わかりません……でも……なんか……腹が立って。
- 男1 30分経ったら、ここを見るも無残にぶっ壊すぞ。怒るのはその時でも間に合う。ぶっ壊される前にやりたいことやっつけ。
- 女優 ……それじゃあ……ちょっと出演してもらえませんか?
- 男1 ……出演?

女優、突然、小道具の武器を持って、狂ったように振り回す。

- 女優 壊させない! ここは壊させるもんか! チンピラめ! クソ野郎!

男1、2、しばらくポカンとするが、理解して、

男1 どきやがれ！ ポッコボコにぶっ壊してやる！
男2 お前なんかには止められるもんか！

男1、2、解体用の道具を振り回して、楽屋に突進する。

女優、男たちに向かっていく。

3人、しばらく、必死に戦う。

男たち、わざとやられる。

その場に倒れこむ3人。

男2 くそっ！ これが芝居か？ たった5分で死にそうだ。
女優 私もこんなに必死になったの初めて。なんか、気持ちいい。
男2 悔しくねえのか？ 韓流スターにあんたらの世界を奪われて？
女優 どうしようもないじゃないですか、オーナーなんたもの。この貴重な
30分を心から大事にします。一生心に刻みます。心にさえ残せばなく
ならない。存在し続ける。私たちは負けたんじゃない。私たちは勝っ
たんです。
男2 け、精神的勝利か。オーナー連中は感謝してるだろうよ。芝居をやれ
と言われたらやって、出て行けと言われたら出て行って。
男1 俺の小学生の息子の夢はビルのオーナーだ。俺は、息子の夢をかなえ
てやるために、今日もせっせとこうやって建物をぶっ壊している。ぶっ
壊してぶっ壊して、壊したかけらを集めて集めてビルを建てる。そし
て息子の名義にしてやるんだ。
女優 いいお父さんですね。
男1 息子がオーナーになったらスペースを一つ分けてやるよ。そこにまた
劇場を作ればいい。
女優 なんていい人！ ただで貸してくれるんですか？
男1 バカか？ 最初は安くしてやる。あんたらが劇場を作ったら、どんど
ん家賃を上げる。悔しかったら出て行けと嘲笑う。出て行く時は元通
りにしろ。あんたらが作った劇場をあんたらの手でぶっ壊すんだ。
女優
男1 あと25分。さ、次は何だ？

女優、少し考えて。

女優 私が.....一番やりたかった役。
男1 なんだ？
女優 東ヨーロッパ人の役です。
男2 東ヨーロッパ！？ やっぱ最後はホットじゃねえとな。

女優 ……そうです……ホットです……私が演劇を始めたきっかけ。
男2 東ヨーロッパで演劇を始めたのか？
女優 入試の課題のモノローグ。

女優、楽屋に座って、扮装を始める。

男たち、客席に座る。

男2 おいおい、30分間、化粧でもするつもりか？
女優 化粧じゃなくて扮装です。
男1 同じだろ。
女優 いえ、なんていうか、化粧が自分をもう少し美しく見せるものだとしたら、扮装は別の人間になるためにするものです。
男1 じゃあ今は、別の人間になろうとしてるのか？
女優 はい、30分の間、別の人間になるんです。面白そうだな。どんな人間になるんだ？

女優、何も言わず扮装を続ける。

男たち、その様子を黙って見守っている。

男2 時間がかかんだな、別の人間になるってのは。
男1 ……俺たちも長かった。こんな人間になるまで。
男2 俺は早かったぜ。小学校の入学式の日、同じクラスの奴を殴った。そいつが俺に母ちゃんを連れて来いって言うから、俺は、孤児院だから母ちゃんはいないって言ったんだ。そしたらそいつの母ちゃんがこう言った。灰燼！ どうしましょう、どうしましょう！ こんな子は、大人になったらチンピラになるわ！」あの日に俺の道は決まった。そしてオレはちゃんと道を外さなかった。
男1 正当化してんじゃねえ。母親がいないからチンピラ？ ヤクザになっただけはそいつの母親の呪いのせいだと？ 俺は、世の中のせいにする奴が一番嫌いだ。
男2 じゃあお前はどうかだよ？
男1 これがてっとり早い、ビルのオーナーになるのにてっとり早いんだよ。悪いって事はわかってる。ふん、腹はくくってる。俺はな、美しい国を作るとか、国民のために身を捧げるとか、公共料金を値上げしないとか、そんな事は言わねえ。俺は、立派なビルを建てて、家族のために身を捧げ、めちゃくちゃな家賃をとるんだ。
男2 お前の国嫌いもたいがいだな。
男1 俺にないものが二つある。同情心と愛国心。だから生き延びてるんだ、

こんな国で。もし俺がデンマークやオランダに生まれてたら、同情心も愛国心も持ってただろう。俺はいさぎがいいんだ。

男2 ヒュー！なるほど！お前はやっぱり知性の塊だな。どうやったらそんな難しいこと考えられんだ？やっぱあれか、本か？

男1 フェイスブック見てりゃわかる。

男2 へえ！すげえな。スティーブジョブス！

男1 マークザッカーバーグだ。

男2 おお！さすが！物知り！

男1 フェイスブック見てりゃわかる。

男2 よし、俺もフェイスブック登録するぞ！友達拒否する奴はぶんのめしてやる！

男1 フェイスブックの話はどうでもいい。目の前に本当のフェイスがあるじゃないか。本物の顔。本物のフェイスだ。

女優、ようやく扮装を終える。

ゆっくり立ち上がり舞台に上がる。モノローグを始める。

女優 ……トリゴーリンが来てる？ ふん、構いやしない、そうよ、あの人は芝居というものを信用しないで、いつも私の夢を嘲笑っていた。それで私もだんだん信念が失せて、気落ちしてしまったの。その上、恋だの苦労だの、嫉妬だの、赤ちゃんのことでしょっちゅうビクビクしたりで、私はこせついた、つまらない女になってしまって、でたらめな演技をしていたわ。

マネージャーが飛び込んでくる。

マネージャー ストップ！ストップ！もう一回！もう一回！

女優 ……ひどい……役者が舞台で演じてるのに……飛び込んでくるなんて。

マネージャー 義兄（あに）が、取材があって最初の方を見れなかったんです。義兄も大好きらしくて、今の。そのロシア野郎、誰だっけ？

女優 ……チェーホフです……ロシア野郎じゃなくて。

マネージャー ああ、そいつ。初めからちゃんと見たいそうです。新曲のタイトルが浮かんだって。

タイトルは『グッバイ チェーホフ』 義兄はチェーホフの格好をして、バックダンサーはセクシーに。最近、セクシーと人文学の融合が流行なんです。もしあんたの芝居が良かったら、ミュージックビデオに出演させるって。広い焼け野原で、女優が心を込めて独白している。そこに遠くからロシアの犬ぞりに乗った義兄さんが登場。セク

シーなバックダンサーたちを引き連れて。

女優

.....。

マネージャー

準備して、ほら。せーのっ！

女優

.....。

マネージャー

義兄が見てるから緊張してるんですね。ほら、せーのっ！

女優

.....。

マネージャー

本当に緊張しているな。観客に向かって) みなさんご一緒に！ 大丈夫！ 大丈夫！

女優、マネージャーをじっと見つめて、もう一度最初から始める。

女優

.....トリゴーリンが来てる？ ふん、構いやしない、そうよ、あの人は芝居というものを信用しないで、いつも私の夢を嘲笑っていた。

マネージャー

ちょっと待って。トリゴーリンって？

女優

.....チェーホフの『かもめ』に出てくる小説家です。

マネージャー

小説？ 小説家って稼げるのか？

女優

.....小説や演劇は当時の芸能でしたから。

マネージャー

へえ.....続けて。

女優

それで私もだんだん信念が失せて、気落ちしてしまったの。その上、恋だの苦労だの、嫉妬だの、赤ちゃんのことでしょっちゅうビクビクしたりで、私はこせついた、つまらない女になってしまって、でたらめな演技をしていたわ。

マネージャー

でたらめな演技なんかして成功できるのか？

女優

.....。

マネージャー

悪い、続けて。

女優

両手の持て扱い方も知らず、舞台上で立っていることもできず、声も思うようにならなかった。ひどい演技をやっているなと自分で感じる時の気持ち、とてもあなたにはわからないわ。

マネージャー

わかる。今がそんな演技だ。

女優

.....。

マネージャー

悪い、続けて。

女優

.....私は...かもめ。いいえ、そうじゃない、コースチャ、覚えてらして？ あなたはかもめを射落としたわねえ。ふとやってきた男が娘を見て、退屈紛れに破滅させてしまう。え、何を話してたんだっけ？ ...そう、舞台のことだったわ。今じゃもう私そんなふうじゃないの。私はもう本物の女優。私は楽しく、喜び勇んで役を演じて、舞台へ出ると酔ったみたいになって、自分は素晴らしいと感じるの。私の精神力が日増しに伸びてゆくを感じるわ。私たちの仕事で大切なものは、名声と

か光栄とか、私が空想していたものじゃなくて、実は忍耐力ということがわかったの。

マネージャー おお！精神的勝利を手に入れたんだな。自分に酔いしれ、自分を素晴らしいと感じて。

女優、黙って、マネージャーを睨み付ける。

マネージャー こ、こわい。

女優なんで.....どうして.....どうして邪魔するんです？あなたにとって.....私は大した人間ではないかもしれないけど.....私は女優です.....今舞台上で.....心を込めて.....演じてるんです.....。心からの言葉で...。どうして邪魔するの？ どうして侮辱するんですか？ 5分でいいから、ほんの 5 分でいいから私を尊重してくれませんか？ 舞台を、演劇を尊重してくれませんか？

マネージャー、拍手する。

マネージャー 素晴らしい。今の、すごく良かったですよ。

女優

マネージャー なんで邪魔するかって？

女優

マネージャー 理由なんてない。退屈だからだ。いくら邪魔しても侮辱してもなんの抵抗もしない。

女優

マネージャー 今の台詞にもあったじゃないか。「ふとやってきた男が娘を見て、退屈紛れに破滅させてしまう」

女優

マネージャー あんたが夢見る人物は、せいぜいその程度の人間だったんですか？

女優これは.....これは.....ニーナです。

マネージャーニーナね.....破滅して当然だな.....

女優

マネージャー 『G.Iジェーン』って映画を見たことがあるか？ 教官がこう言うんだ。「自分に同情する野生動物なんていない。巣から落ちた鳥でさえも自分に同情なんてしない」俺が韓流スターの身内だからって何も考えてないし、何も思わないと思ってるんだろ？ ばか言うな。俺はわざと何も考えず何も思わないフリをしてるんだよ。義兄がそれを望んでるからな。そうすりゃ警戒しない。好きにさせてくれる。だから俺は絶対に破滅なんてしない。寄生して

生きるんだ。舞台上でスポットライトを浴びる事はないが、少なくとも舞台から追い出される事はない。どこにくっつけばいいか知ってるんだよ。突然破壊され、荷物を捨てられるようなこの国で生きるなら、この国にふさわしい言葉を使えよ。遠い国の言葉を話して何になる？ 幽体離脱話か？ わからんね。理解できない、理解できない、理解できない！

人々 ………。
マネージャー ……なるほど……これがモノローグってやつか。
人々 ………。
マネージャー 演劇万歳！
人々 ………。
マネージャー それでは！ 私はまた、お馬鹿な義理の弟モードに戻りまあす。
人々 ………。
マネージャー お義兄さまー！ お小遣い～～！

マネージャー、退場。

男2 ……あいつも…演技、すげえうまかったんだなあ。
女優 ……そうですね。
男1 みんな自分の演技だけは最高だ。何十年も演じてきてんだから。
女優 あなたたちも、今、演技してるんですか？
男1 おおそうだ。俺は、今、怖そうな男を演じてる。冷酷で残忍な男。決して笑わない。笑うと弱ちく見えるからな。
男2 俺も。喧嘩が強そうな演技中。睨みを利かせてビビらせる。オラオラ、いつでもかかってきやがれ！
女優 大変ですね。ずっと笑わないで、睨んでばかり。

一同、しばらく黙っている。

女優 いいものあげましょうか？
男1、2 ……？
女優 15分、プレゼントします。
男1、2 ………。
女優 15分、別の人間を演じてみませんか？ 怖くて喧嘩の強そうな人間じゃなくて。
男2 ……お前……いい奴だな……なんか……わりいな。

男1、男2の頬を叩く。

男1 俺たちに施しのつもりか？ ふざけるな！ 追い出される奴が追い出す奴に15分のプレゼント？ 格好つけやがって！ 最後の時間を俺たちにやる？ 呆れるね。そんなんだからいつも負けんだよ。俺だったら、この15分、道具を振り回して必死で戦うね。上着を脱いで、暴れ回って、ごねて泣き叫び邪魔をする。ごね続けてりゃそのうち黙らせようとちょっとぐらい金を恵んでくれるだろ。いいか、こうやって勝ち残るんだ。

女優 私は、そんな生き方はしません。

男1 ……。

女優 そんなふうには生きられない。

男1 ……。

女優 いくらバカにされて笑われて侮辱されても、私は絶対にそんな生き方はしません。私はこうやって生きていくんです。劇場を探して演劇をして、劇場を追い出されたら他の劇場を探して、劇場がなくなったらカフェで、広場で、公園で、演劇をします。世の中はどんどんパンパンに詰まって、詰まって、そして私を押し出し、押し出して、追いやってしまうだろうけど、私は押し出されて、押し出されて、追いやられた場所で、また演劇をします。私は決して復讐しません。私は決して抵抗しません。私は何度押し出されて、追いやられて、ポコポコにされても、また演劇をします。私はこうやって生きていくんです。私はこうやって生きていくんです。私はこうやって生きていくんです。

一同、しばらく黙る。

男1 ……ふん……アホくさ。

女優 ……。

男1 ……絶滅していく野生動物みたいだな。

女優 ……。

男1 ……でも……野生は野生だ…まだな。

女優 ……。

男1、黙って、着ていた作業服を脱ぐ。

それを見ていた男2も一緒に脱ぐ。

二人、下着姿になる。

女優 ……（その姿を見て）……弱っちい…。

二人、楽屋に行って、ゆっくり扮装を始める。

女優、その姿を見守る。
扮装の終わった男1と男2

女優 私たちって、そうやって生きるために生まれたんです。
男1こりゃ全部ぶっ壊すには.....ちょっと時間がかかるな.....
女優
男1 それまで、好きなように使いな。
女優
男1 すっかりなくなるまで...ここは劇場なんだから。

男たち、一人ずつ舞台上上がり、
それぞれ完璧な独白をする。

二人の独白が終わり、

男1 さあ、時間だ。
女優
男1 全てなくなったら、あんたらは本当にここからいなくなる。
女優
男1 俺らに会うこともない。
女優いえ.....きっと会います.....。私たち、また劇場を作るから。でも、
どうせうまくいかないだろうから...そしたらまた私たちは立ち去るから.....劇場がうまくいったら...家賃が上がるだろうから...そしたらまた私たちは立ち去るから...うまくいってもいなくても...どうせ私たちは立ち去るから.....そしたらまたあなたたちが現れる。
男1自信はあんのか？ 何度追い出されても、演劇を続ける自信。
女優自信があるとかないとかの問題じゃありません。
男1

男たち、舞台上の全てのものを片付け始める。

女優、その中心で、『楽屋』の女優も口にした、ニーナの台詞を始める。
。

舞台が空っぽになると、舞台の明かりも消える。

暗闇の中、ニーナの台詞が続く。

女優トリゴーリンが来てる？ ふん、構いやしない。関係ないわ。そうよ、あの人は芝居というものをバカにして、いつも私の夢を嘲笑ってる。それで私もだんだん信念が失せて、気落ちしてしまったの。そ

の上、恋だの苦労だの、嫉妬だの、赤ちゃんのことでしょっちゅうビクビクしたりで、私はこせついた、つまらない女になってしまって、でたらめな演技をしていたわ。

両手の持て扱い方も知らず、舞台上で立っていることもできず、声も思うようにならなかった。ひどい演技をやっているなど自分で感じる時の気持ち、とてもあなたにはわからないわ。.....私は...かもめ。いいえ、そうじゃない、コースチャ、覚えてらして？ あなたはかもめを射落としたわねえ。ふとやってきた男が娘を見て、退屈紛れに破滅させてしまう。え、何を話してたんだっけ？ ...そう、舞台のことだったわ。

今じゃもう私そんなふうじゃないの。私はもう本物の女優。私は楽しく、喜び勇んで役を演じて、舞台へ出ると酔ったみたいになって、自分は素晴らしいと感じるの。私の精神力が日増しに伸びてゆくのをを感じるわ。私たちの仕事で大切なものは、名声とか光栄とか、私が空想していたものじゃなくて、実は忍耐力ということがわかったの。得心がいったの。おのれの十字架を負う全てを知り、ただ信ぜよ...。私は信じているから、そう辛いこともないし、自分の使命を思うと人生も怖くないわ。（聞き耳を立てる）シッ。もう私行く、ご機嫌よう。私が大女優になったら見にいらして頂戴ね。約束してくださる？（架空の手を握る）もう夜が更けたわ。私はやっと立っているの、精も根も尽き果てて...。何か食べたいわ（化粧台のクッキーをつまむ）いえ、だめ、送ってこないでね。一人で行けるから。トリゴーリンに会っても何も言わないでね。...私、あの方が好き、前よりももっと愛しているくらい。

コースチャ！ 昔は良かったわねえ。なんと晴れやかな、温かい、喜ばしい清らかな生活だったんでしょう。優しい、すっきりした花のような感情...。覚えてらっしゃる？ ...人も、ライオンも、鷲も、雷鳥も、ツノを生やした鹿も、ガチョウも、蜘蛛も、水に棲む無言の魚も、海に棲むヒトデも、人の目に見えなかった微生物も...つまりは一切の生き物、生きとし生けるものは、悲しい循環を終えて消え失せた...。もう何千世紀というもの、地球は一つとして生き物を乗せず、あの哀れな月だけが虚しく灯りを灯している、今は牧場に寝覚めの鶴の鳴く音も絶えた...。菩提樹の林に、こがね虫の羽音もない...

暗闇の中のモノローグが終わると、舞台に明かりがつく。

舞台の上には何も無い。

幕